

作土深の確保と健苗育成で「丈夫な稲づくり」のスタートダッシュ！

1 本田準備 ～異常気象に負けない根域を確保するため、作土深は15cmを目標としましょう～

- 消雪後は土壌への酸素供給や乾土効果発現のため、暗渠の開放や作溝等により排水を促し、ほ場の乾燥に努めてください。
- 高低差の大きいほ場は、田植え後に深水となった部分の生育不良や、田面露出部分の除草剤効果が不安定になるなどの支障があるため、できる限り整地を行きましょう。
- 畦畔の亀裂やねずみ穴などにより漏水の多いほ場は、畦塗りを徹底するなど漏水防止に努めましょう。
- 根の分布域を広げ、高温や水不足等の影響を軽減するため、耕深は15cmを目標に丁寧に行いましょう。

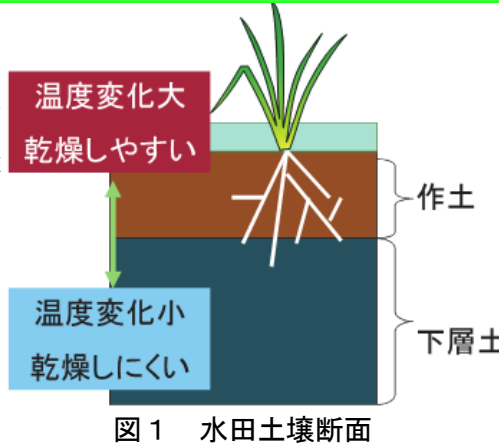


図1 水田土壌断面

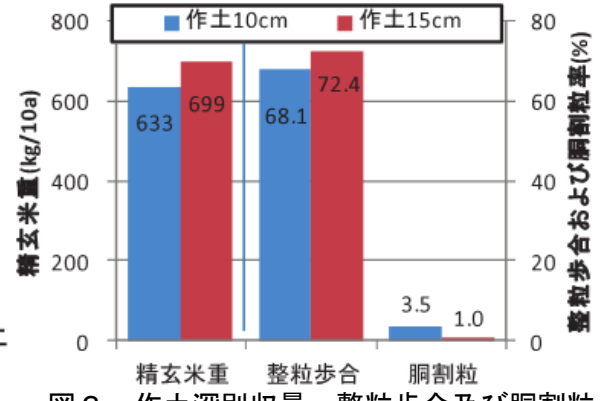


図2 作土深別収量・整粒歩合及び胴割粒 (作研センター)

2 育苗管理 ～苗ヤケを出さない、老化苗や徒長苗にしない温度管理を徹底し、適切な育苗日数で仕上げましょう～

(1) 育苗計画

- 高温の影響を受けやすい早すぎる出穂を避けるため、コシヒカリの田植えは原則として5月10日以降で計画してください。
- 育苗期間が長いと苗が老化し、初期分けつの発生が抑制されるため、下記を参考に田植え日から逆算して作業計画を立てましょう。
- 育苗期間は稚苗(加温ハウス)で18日程度、中苗は30日程度をめやすとし、無加温育苗では2日程度長めとしてください。

| 育苗方式 | 浸種 | 催芽 | は種 | 出芽 | 緑化 | 硬化 | 田植 |
|-----------|-------|-------|------|-------|-------|------|------|
| 加温出芽ハウス | 4/15～ | 4/25～ | 4/27 | 4/27～ | 4/29～ | 5/2～ | 5/15 |
| 無加温出芽ハウス | 4/13～ | 4/23～ | 4/25 | 4/25～ | 4/29～ | 5/2～ | |
| 加温出芽露地プール | 4/13～ | 4/23～ | 4/25 | 4/25～ | 4/27～ | 4/30 | |

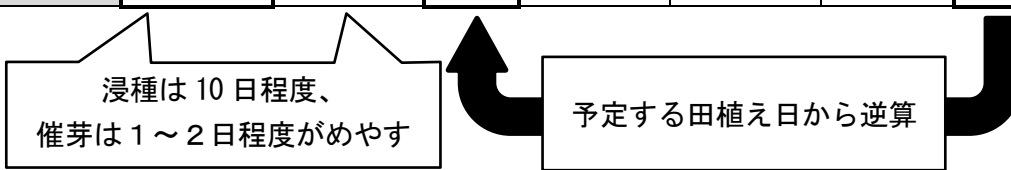


表1 コシヒカリの育苗スケジュールの例(平坦地・稚苗の場合)

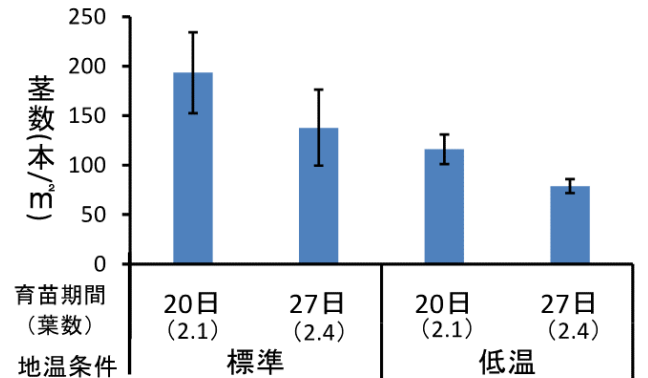


図3 稚苗の育苗期間が初期分けつの発生に及ぼす影響 (移植20日後 作研センター)

(2) 育苗管理

- 近年、育苗初期の高温により苗ヤケの発生が多く見られるため、被覆資材の選定に注意するとともに、朝から好天の日はハウス内及び育苗箱表面の温度をこまめに確認し、必要に応じて換気や除覆を行ってください。
- 露地育苗で降雨後に被覆資材の上に雨水が溜まった場合は、レンズ効果による苗ヤケを防止するため直ちに排水を行ってください。

| 時期 | 目指す苗姿 | 管理方法 | |
|-----------------|---|---|---|
| | | ハウス育苗 | 露地プール育苗 |
| 出芽期 (2～3日間) | 出芽終了時 出芽長1cm程度 | 【加温】 30℃設定 ・稚苗加温出芽の場合は30℃で2～3日程度加温し、出芽長を0.5～1cm程度に抑える。 ・中苗加温出芽の場合は30℃で1～2日程度加温し、出芽長を0.5cm未満にする。 | |
| | | 【無加温】 昼30℃ 夜15℃以上 ・ハウスの無加温出芽は、出芽まで5～7日程度を要する。 ・低温時は保温するなど、温度確保に努める。 | ・露地プール育苗での無加温出芽は、低温により出芽が不安定になりやすいため、気温が安定する4月20日以降には種を行う。 |
| 緑化期 (2～4日間) | 緑化終了時 第一葉鞘長3.5cm程度 | 昼20～25℃ 夜15～18℃ ・出芽直後の苗は急激な気温の変化や強光に弱いため、緑化完了までは被覆資材で遮光する。 ・床土が乾燥している場合は、床土の温度低下を避けるため、午前中の早い時間にかん水する。 ・第1葉鞘長が稚苗で3.5cm、中苗で2.5～3cmになったら被覆資材をはがし、緑化を終了する。 | |
| | | ・ハウス内が25℃以上の場合や好天で気温が上がりそうときは、積極的に換気を行い、ヤケ苗の発生を防止する。 | ・ミラシートやワリフなどを組み合わせて二重に被覆し、保温に努める。 ・高温が予想される日中は、遮光しながら必要に応じて除覆する。 |
| 硬化期 (13日間程度) | 硬化終了時 葉齢：2葉 苗丈：12cm 第一葉鞘長3.5～4cm | 昼15～20℃ 夜10℃以上 ・除覆後は日中にハウスを開放し、苗を徐々に外気にならす(霜注意報の発令等、10℃以下の低温が予想される場合は被覆し保温)。 ・換気を十分に行い、田植え5～10日前からは夜間もハウスを開放する。 ・硬化期前半は1日1回、午前中に十分かん水し、後半は乾燥程度を見ながら1日1～2回かん水するが、夕方のかん水は避ける。 | ・葉齢が1～1.2葉になったころから湛水を始め、開始時の水位は床土面までとし、その後水位が1cm程度になったら苗丈の半分くらいになるまで徐々に水位を上げる。 ・田植え2～3日前に落水する。 |
| | | ・活着を早めるため、田植え4～5日前頃(稚苗で1.8葉頃)に窒素成分で1～2g/箱を追肥する。 ・追肥後は、肥料焼けを防止するため必ずかん水する。 | |

